

■ 概況

当週（1月29日～2月4日）の国際石油市場は、イランと米国の緊張関係を中心に展開、緊張激化で値上がり、緩和で値下がる推移を示した。加えて、連邦準備制度理事会の新議長に、タカ派のウォーシュ氏が指名され、利下げ先送り感も漂った。30日の米国内原油在庫は予想に反した取り崩しだった。

NYのWTI原油先物市場は、29日に続伸の65.42ドルで始まったが、30日は反落、2月2日は続落で62.14ドル、その後は、3日反発の63.21ドル、4日続伸の65.14ドルで終わり、前週に比べやや堅調に推移した。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）も、前週（1月22日～28日）は61.40～64.30ドルの範囲で推移したが、当週は、1月29日62.60ドル、30日60.30ドル、2月2日66.50ドル、3日64.70ドル、4日67.10ドルだった。

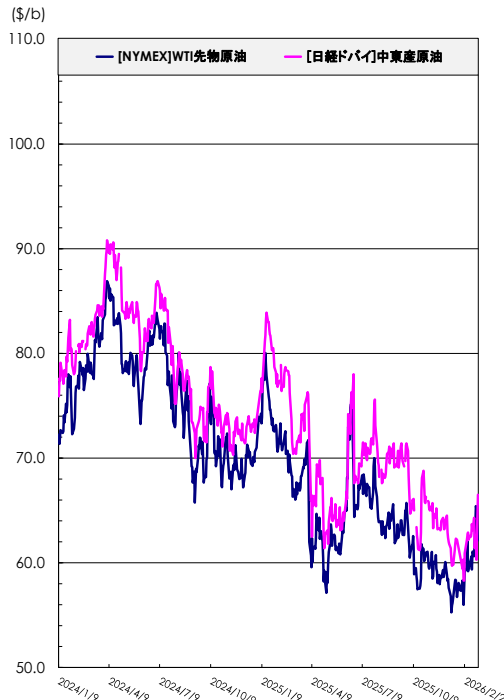
対ドル為替レート（TTM）は、前週（1月22日～28日）152.47～158.62円の範囲で推移したが、当週は、1月29

日153.15円、30日153.66円、2月2日155.29円、3日155.60円、4日156.07円だった。

そのような中で、2月2日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円高、軽油も同0.1円高、灯油は同2円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は155.6円だった。

ガソリンの補助金は、12月31日、旧暫定税率の廃止と同時に廃止された。引き続き、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の補助金が支給されている。

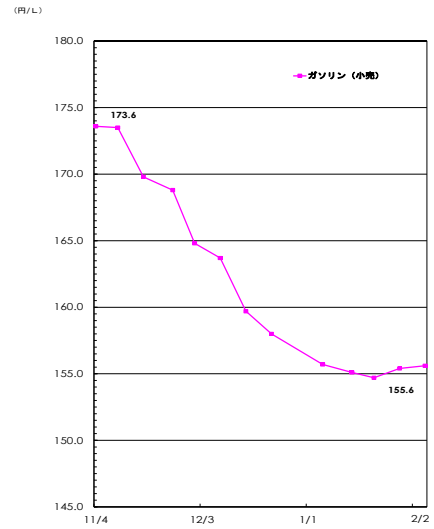
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|------------------------|-----------|--------|-----------------|
| 需給 | 原油処理量（千kl） | 1/25～1/31 | 2,910 | ▼ -103 ▲ - |
| | トッパー稼働率（%） | " | 84.1 | ▼ -2.9 ▲ - |
| | 原油在庫量（千kl） | 1/31 | 9,906 | ▲ 655 ▼ - |
| 価格 | 中東産原油（日経ドバイ）（\$/bbl） | 2/3 | 66.50 | ▲ 2.20 ▼ -11.7 |
| | WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl） | 2/2 | 62.14 | ▲ 1.51 ▼ -11.0 |
| | 原油CIF単価（\$/bbl） | 1月上旬 | 69.62 | ▲ 1.12 ▼ -6.95 |
| | ①原油CIF単価（¥/kl） | " | 67,304 | ▼ -875 ▼ -6,123 |
| | ②ドル換算レート（¥/\$） | " | 155.71 | ▲ 0.50 ▼ -3.25 |
| | 外国為替TTSレート（¥/\$） | 2/3 | 156.29 | ▼ -0.44 ▲ 0.42 |



(単位：千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|------|-------------|------------------------|-------|-------|---------|
| 需給 | 在庫 | 1/31 | 1,696 | ▼ -23 | ▼ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 1/27 ~ 2/2 | 83.0 | ➡ 0.0 | ▼ -4.0 |
| | | (TOCOM/中部) 2/2 | — | — | — |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 2/2 | 155.6 | ▲ 0.2 | ▼ -29.0 |

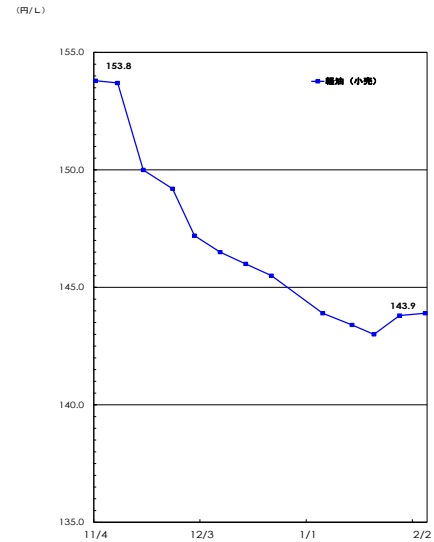
※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

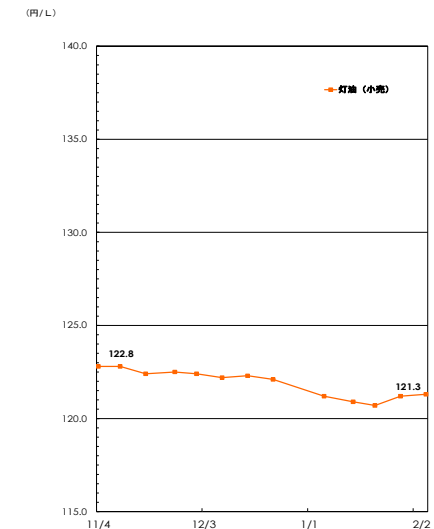
| 軽油 | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----|-------------|------------------------|-------|-------|---------|
| 需給 | 在庫 | 1/31 | 1,535 | ▼ -92 | ▲ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 1/27 ~ 2/2 | 72.2 | ▲ 1.8 | ▼ -15.8 |
| | | (TOCOM/中部) 2/2 | — | — | — |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 2/2 | 143.9 | ▲ 0.1 | ▼ -20.4 |

※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|----|-------------|------------------------|-------|--------|--------|
| 需給 | 在庫 | 1/31 | 1,804 | ▼ -127 | ▼ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 1/27 ~ 2/2 | 83.0 | ➡ 0.0 | ▼ -5.0 |
| | | (TOCOM/中部) 2/2 | — | — | — |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 2/2 | 121.3 | ▲ 0.1 | ▼ -5.5 |



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(1月22日～28日)のNYMEX・WTI先物市場は、59.36～63.21ドルの範囲で推移した。

当週1月29日は、トランプ大統領が、イラン海域に向けて大艦隊が向かっていると発言するなど、武力攻撃の可能性を含め、両国間の緊張が高まり、大幅に続伸、4か月ぶりの高値を更新した。3月物終値は前日比2.21ドル高の65.42ドル。

30日は、トランプ大統領が「イランは妥協したがっている」と発言、両国の緊張はやや緩和、また、次期連邦準備制度理事会(FRB)議長にタカ派のウォーシュ氏を指名するとの見通しで、利下げに動きにくくなるとの観測から、利益確定売りも優勢となり、3営業日ぶりに反落した。ただ、下値は重たかった。3月物終値は同0.21ドル安の65.21ドル。

週明け2日は、トランプ大統領が「イランは米国と真剣に協議している」と発言、さらに、トルコ・エジプト・カタールは、米・イラン間の高官協議を調整、両国の緊張は一段と緩和し、大幅に続落した。FRB新総裁の指名も、米国の

利下げは遠のいたとして、ドル高・ユーロ安となり、原油先物の割高感が目立った。また、OPECプラスの有志6カ国は、1日、WEB会議で、3月分の減産緩和について、既定方針の1・2月に続く据え置きを確認、増産を回避したことで、市場への大きな影響はなかった。直近の3月物終値は3.07ドル安の62.14ドル。

3日は、イランの砲艦がペルシャ湾内で米国籍タンカーに接近との報道、他方、米空母は接近してきたイランのドローンを撃ち落としたと発表、再び緊張が高まり、また、安値拾いの買いも多々見られ、3営業日ぶりに反発した。3月物終値は1.07ドル高の63.21ドル。

4日は、イランが米国との協議に難色、米国は協議へのアラブ諸国への参加を要望し、その開催が危ぶまれてきたこと、また、この日発表の前週末の米国内原油在庫が予想に反して前週比取り崩し、中間留分在庫も予想を上回る取り崩しとなったことから、続伸した。3月物終値は、1.93ドル高の65.14ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)が、2月4日に発表した、1月30日現在の米国在庫週報によれば、前週比で、原油在庫は前週比350万バレル減と市場予想(50万バレル増)に反して取り崩し、また、中間留分在庫も560万バレル減と予想(230万バレル減)を大幅に上回る取り崩しで、米国内需給の引き締め観測が強まった。

また、EIAによると、2月2日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.4セント高の1ガロン2.867ドル(118.2円/ℓ)と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格も、前週比5.7セント高の3.681ドル(151.8円/ℓ)と3週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月30日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの411基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、1月25日～1月31日に休止したトッパー能力は12.8万バレル/日で、前週に対して1万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は291.0万klと、前週に比べ10.3万kl減少。前年に対しては24.2万klの増加。トッパー稼働率は84.1%と前週に対して2.9ポイントの減少、前年に対しては7.0ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

1月31日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、軽油、A重油は取り崩し、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは169.6万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては10.7万kl少ない。

灯油は180.4万kl、前週差12.7万kl減。前年に対しては8.1万kl少ない。

軽油は153.5万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては12.2万kl多い。

A重油は73.3万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては2.3万kl少ない。

C重油は176.9万kl、前週差7.4万kl増。前年に対しては8.7万kl多い。

(単位：千KL)

| | 今週 (1/31) | 前週 (1/24) | 前週比 |
|--------|--------------|--------------|----------------|
| ガソリン | 1,696 | 1,719 | ▼ -23 (-1%) |
| ジェット燃料 | 728 | 752 | ▼ -24 (-3%) |
| 灯油 | 1,804 | 1,931 | ▼ -127 (-7%) |
| 軽油 | 1,535 | 1,627 | ▼ -92 (-6%) |
| A重油 | 733 | 781 | ▼ -48 (-6%) |
| C重油 | 1,769 | 1,695 | ▲ 74 (4%) |
| 合 計 | 8,265 | 8,505 | ▼ -240 (-2.8%) |

5 国内/元売会社製品卸価格

1月27日～2月2日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートは円高だったが、2月5日からの元売会社の卸建値はわずかに値上げされたものと見られる。

揮発油の補助金は、12月31日、旧暫定税率(現：当分の間税率)と同時に廃止となったが、他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円、ジェット燃料が4円で据え置きだった。

6 国内/製品小売価格

2月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の155.6円、軽油も同0.1円高の143.9円、灯油は18銭ベースで同2円高の2,184(18銭ベースでは同0.1円高の121.3円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは27道府県、横ばいは5県、値下がり15都県だった。全国最安値は愛知県の148.1円、その次は宮城県の149.0円であった。他方、最高値は鹿児島県の164.8円。最も値上がりしたのは和歌山県(前週比2.2円高)、逆に、最も値下が

りしたのは鹿児島県(同0.9円安)だった。

次回調査時(2/9)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/ℓ)

| (資工庁公表) [週動向] | | 今週 (2/2) | 前週 (1/26) | 前週比 | 直近高値 | |
|------------------|-------|----------|-----------|-------|-----------------------|-------|
| 小売価格 | レギュラー | 155.6 | 155.4 | ▲ 0.2 | 2023/9/4 2025/4/14 | 186.5 |
| | 灯油 | 121.3 | 121.2 | ▲ 0.1 | 08/8/11 | 132.1 |
| | 軽油 | 143.9 | 143.8 | ▲ 0.1 | 08/8/4 | 167.4 |

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第44号)の公表は、2/13(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘッドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリー オイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁—HPIに掲載)。